

団体名 チームものゆにば (光市)

代表者名	松村 瞳	団体の目的
構成員数	10人	<ul style="list-style-type: none"> ・「ものづくり」を通して、障害のあるなしに関わらず、誰もが生き生きと生活できる地域を目指す。 ・障害のある人たちの作品や作る姿を、ワークショップで実際に関わることを通じて「人と人」が生きることを尊重しあう地域をつくる。
設立	2018年(H30年)12月	
問い合わせ先	☎090-3726-4130 (阿部)	

事業名 障害者への理解促進ワークショップ～一緒にさをり織りを楽しもう～

事業の目的

- ・障害のある人と、一般の市民とのふれあいの機会を増やし、相互理解や障害への理解を広める。
- ・障害のある人の創作を通して、障害のある人たちへの関心を持ってもらい、誰もが暮らしやすい地域をつくる。

事業の内容

- ・「来てみて遊びに来て展」
開催日：8月23日・24日 場所：ものゆにば工房
内容：さをり織り体験ワークショップ、日常作業の見学、作品の写真展示、作品の作者紹介、創作活動の実演
参加者：12人
- ・さをり織りワークショップ
開催日：9月20日、23日、11月23日・24日
場所：ものゆにば工房
内容：さをり織り体験ワークショップでのコースターやストラップ等の作成
参加者：32人

事業の成果

- ・障がい者の創作実演や作品を見ていただき、ふれあうことで、障がいのある人達への温かい理解を広めることができた。

活動現場レポート！ さをり織りワークショップ〈R1.11.24/ものゆにば工房〉

この日は、ものゆにば工房の施設内を見学させていただきました。同施設は、障害福祉作業所であり、訪問時は、3人が作業中でした。

地元の養護学校高等部を卒業した二人のうち、一人はずっとマジックペンで直線を描き続け、もう1人は「さをり織り」に使用する糸を織り込む端材を用意されていました。交通事故により障害の残る1人は、自身の作品（竹細工、ポーチなど）の展示、即売をされていました。

また、来訪者の一人が指導を受けながら「さをり織り」に挑戦しておられ、15センチ幅のコースターを作成中でした。

作業所内には、数多くの織物や、通所者の作品が展示されていました。皆さん、真剣に一生懸命取り組んでいるのが感じられました。

なお、「ものゆにば」とは、ものづくり＋ユニバーサルデザインの造語とのこと。



さをり織りに挑戦



作品の展示